

王都首里の郊外に生まれたまち

大名町は元々、西原村平良の小学でしたが、1879（明治12）年の沖縄県設置により職を失った士族たちが移り住み、屋敷集落を形成していきました。1920（大正9）年、西原村から石嶺・末吉の2つの町を首里区へ編入した際、同時に真地原・大名原・後原の3つを合わせ、大町としました。歴史的には若い町ですが、琉球競馬が行なわれていた平良真地跡など見どころがたくさん。さわやかな秋空のもと、歴史散策を楽しんでみてはいかがでしょうか。



平良真地跡

真地とは馬場のこと。1695年、首里初の本格的な馬場が大名町に開設されました。全長約300m、幅約15m、馬場の両側には松並木が続く、馬場一面に枝をはたいていたといわれています。中央付近には貴賓席である「御参敷」が設けられていました。平良馬追いとも呼ばれ、競馬や馬の品評会などが催されたといわれています。

大正期から昭和18年頃まで毎年10月20日には沖縄神社祭に奉納される馬勝負が行われ、島尻と中頭の馬勝負は人気の伝統行事でした。

また、かつて琉球最大の綱引きだった綾門大綱の綱は、平良と識名の馬場で打たれたと伝わっています。

ついでに案内する宮内省の馬場跡、平良真地跡、現在、中央付近にある



琉球競馬とは

琉球には、馬の速さではなく、前後の足を同時に左右交互に出す側対歩（アシクマスン）の美しさを競う競馬がありました。馬追（シマウサー）、馬勝負（シマスーブ）、馬揃（シマズリー）などと呼ばれていた琉球競馬。乗り手のりりしさや、馬の飾りつけも評価の対象だったといわれています。



平良真地跡。松並木は戦時中、陣地構築のために伐採された。現在は舗装され、広い直線道路になっている

馬アミシグムイ跡

馬に水浴びをさせる小堀があった場所。湧き水を利用した石造りの四角い池で、戦後まで使われていましたが、現在は埋められています。

フェーヌヒラ

首里から浦添の経塚橋に通じる道。浦添から見て南側にある坂ということで、南又坂と呼ばれます。王府時代は首里城と浦添城を結ぶ宿道で、政治・経済・軍事上重要な国道でした。

ナディガー

崖下を掘り下げ、内側を石積みで固め、水汲みのための石敷きの広場を設けています。旧正月の元旦朝に厄除けと不老長寿を願って行われるお水撫でに用いる若水をとったことから、ナディガーと呼ばれるようになりました。平良樋川とも呼ばれることから、平良村の発祥とも関係があるとも言われています。

コラム②

綾門大綱とは

新国王の即位を祝い、琉球国第一の主要道路である綾門大道（アイジョーウフミチ：現在の中山門跡と守礼門の間の道）で開催された大綱引き。残念ながら1898（明治31）年に途絶えてしまいましたが、首里城復元15周年記念イベントとして2007（平成19）年に復興。関係者は今後、10年ごとの開催を目指しています。



明治維新の慶賀使一行。前列左が副使だった宜野湾親方（1874年に宜湾と改姓）、中央が正使の伊江王子、右は喜屋武親雲上。後列左は山里親雲上、右は外務省通弁。

写真提供：那覇市歴史博物館

蔡温の墓

蔡温（具志頭親方文若）は1682年に久米村に生まれました。琉球国が生んだ最大の政治家で、羽地朝秀の改革路線を引き継いで、数々の業績を残しました。中でも特筆すべきはいわゆる「松山政策」。身分や用途に応じて使用できる木材を決めて乱伐を防ぎ、植林を奨励しました。また、北京で学んだ風水の知識を活かし、さまざまな土木工事をを行いました。



蔡温の肖像画（琉球切手：仲村頭氏提供）

宜湾朝保の墓

1823年に首里で生まれた朝保（唐名向有恒）。1859年、「牧志・恩河事件」がおこり、朝保はこの事件の糾明奉行に任じられます。事件の4年後、朝保は39歳の若さで三司官に就任。1868年に明治政府が樹立し、1871年に薩摩藩置県がなされた時は上京し、尚泰王を琉球藩王に封ずるといふ命を受けて帰りました。

クンジャンモーグワ

遠く読谷や恩納岳、慶良間の島々を眺めることができたという見晴らしの良い広場で、漢字で書くと国頭毛小。南側の崖下には辺戸への遥拝井戸とされる辺戸ウカーがあることから、国頭の名がついたと考えられます。



しかし新政府は一方的に琉球藩を廃して沖縄県を設置する琉球処分を行います。朝保は精神的な打撃を受け、不遇のうちに1876年に病死します。琉球国最後の三司官であり、近世琉球・近代沖縄最大の歌人でもありました。

金武良仁絃声碑

1873年、金武間切総地頭職の嫡男として首里儀保に生まれた金武良仁。19歳で安富祖流・安室朝持に師事。1936（昭和11）年5月「琉球古典芸能大会」と題して東京の日本青年会館で公演後、コロムビアレコード社で16曲をレコーディング。ところが帰沖後3カ月で病没しました。その功績を偲び、1960（昭和35）年に金武良仁絃声碑が建立されました。

下又御嶽

旧平良村の御嶽で、所管は平良ノ口でした。「琉球国由来記」によると、下又御嶽の神名はマヌスカサノ御イベと記載されています。



住所は平良町になるが、末吉宮寄りに上又御嶽もある

カブイガー

漢字では冠り井戸と書きます。カブイとは屋根付きの門（ヤージョー）の屋根の部分、覆いを示す言葉で、井泉を上から琉球石灰岩が覆いかぶさったような状態から名前が付いたとされています。



マンションの裏にひっそりと残るカブイガー。現在は安全性を考慮して柵で囲まれている



凡例	
	241 県道
	一般道
	バス路線・停留所
	平良 信号・主要交差点
	学校
	郵便局
	歴史資源
	その他歴史資源
	河川
	公園範囲